

# 令和5年度 資源循環局 運営方針

## 1 基本目標

令和5年度は「横浜市中期計画2022-2025」を力強く前進させる年です。計画の核である、基本戦略「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」の実現に向け、資源循環局は「誰もが快適に暮らし、将来を担う子どもたちに良好な環境を引き継ぐ」ための施策を着実に実施します。

### ■ SDGsの達成と脱炭素社会の実現に向けた取組の推進

プラスチック対策をはじめ、食品ロス削減や3Rの推進、環境にやさしいエネルギーの活用を進め、SDGsの達成と脱炭素社会の実現を目指します。

### ■ 安定したごみ処理の継続と市民ニーズへの対応

いかなる時においてもごみ処理を継続し、安全安心な市民生活と市内経済を支えるとともに、ごみ処理手続のDX化やごみ出しの支援、まちの美化対策など、多様な市民ニーズに着実に対応します。

### ■ 将来を見据えた施設整備

ごみ処理を将来にわたり安定的に継続していくため、環境にやさしいエネルギーの創出や環境学習の拠点となる焼却工場の再整備をはじめ、本市廃棄物処理施設全体の整備を計画的に実施します。

⇒ 上記目標の達成のため、横浜G30プラン、ヨコハマ3R夢プランに続く、新たな一般廃棄物処理基本計画を策定し、その取組内容を様々な広報媒体や機会を利用して、わかりやすく伝えます。

## 2 目標達成に向けた施策

重点施策	主な取組・内容
プラスチック対策 (政策19)	○プラスチックごみの分別・リサイクル拡大の早期実施に向け、排出されるプラスチック製品を把握するための実態調査等を一部地域で実施 ○事業者との連携による、使い捨てプラスチックの削減の取組を推進 ○事業者によるプラスチック製品等の回収の実施状況調査や、事業者等による様々な取組のPR
食品ロス削減・ 3Rの推進 (政策19)	○国際機関や事業者等と連携した食品ロス削減に向けた取組 ○食品ロスの発生量の調査や削減につながる取組を検証し、検証結果に基づく効果的な広報啓発の展開 ○3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進に向け、幅広い世代を対象とした環境学習・広報啓発の実施、積極的な「伝わる」情報の発信
脱炭素化の推進・ 環境にやさしい エネルギーの活用 (政策19)	○ごみを焼却した際に発生する排ガスからCO <sub>2</sub> を分離・回収、利用する取組を事業者と共に推進 ○ごみ焼却工場で発電したCO <sub>2</sub> を排出しない電気「環境にやさしいエネルギー」を市営地下鉄「グリーンライン」で活用するなど地域活用の推進 ○鶴見工場の熱エネルギーの地域活用の推進
安定したごみ処理・ 市民ニーズへの対応 (政策19)	○ごみの収集・運搬・処理・処分をいかなる時も確実に実施するとともに、高齢化に伴うごみ出し支援のニーズ増加に着実に対応 ○利便性向上のため、インターネット等における粗大ごみ処理手数料の支払方法に電子決済を導入 ○横浜の玄関口でもあり、多くの方が訪れる横浜駅周辺の美化強化をはじめ、地域清掃の活性化や海洋プラスチックごみ削減への取組
将来を見据えた 施設整備 (政策19・38)	○地域に根差し、脱炭素社会の一翼を担うごみ焼却工場として再整備を進める保土ヶ谷工場の建設に向けた事業者選定等の推進 ○廃棄物処理施設の整備にあたっては、AI・IoT技術を積極的に活用し、効率的な施設運営について検討

( )内は横浜市中期計画2022-2025の政策番号

### その他推進施策

災害対策	国際協力(政策25)	未利用等土地の利活用	PCB廃棄物対策
------	------------	------------	----------

## 3 目標達成に向けた組織運営

チーム力の向上	<b>活発な議論</b> 現場で働く職員の目線を大切にし、職位を問わず若手職員も含め、組織一丸となって活発に議論を尽くします。職員一人ひとりが生き生きと業務に取り組み、ポテンシャルを最大限に発揮できるよう、組織を活性化します。
	<b>スケジュール管理</b> 多様な市民ニーズにスピード感を持って着実に対応するため、スケジュール管理を徹底します。市民・事業者等との連携やDXの取組、ワークライフバランスの推進など、業務の効率化を図ります。
	<b>凡事徹底</b> 当たり前前ことを徹底して行い、市民の皆様からの信頼と期待に応えます。作業中の事故、公務災害の防止など安全対策の徹底や、不適切な事務処理、個人情報漏えいなど不祥事の防止に全職員が取り組みます。